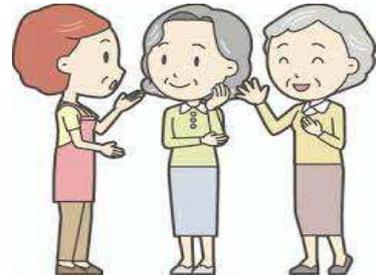


地域・防災だより

第54号 2021年9月
天嶽院下自治会・自主防災会
(作成協力)防災協カグループ

ご近所の方とコミュニケーションができていますか？

防災の日(9月1日)は、1923年(大正12年)に発生した関東大震災にちなんで制定されたことはご存知だと思います。そして今年「東日本大震災」から10年が経ちました。日頃からの災害への備えや自身の安全を守る為の自助の大切さをお伝えしていますが、自助だけではなく、地域内での共助も重要です。実際、「東日本大震災」でも“お隣に助けられた”という事例が沢山ありました。ご近所の方と先ずは、「こんにちは」の挨拶から始めてみませんか。



夏休み両公園のラジオ体操実施状況

御幣下公園で例年7・8月下旬の各3日間実施している「夏休みラジオ体操会」は、コロナ禍のため今年も子ども会が参加できず、普段の静かなラジオ体操会となりました(写真)。一方、赤坂公園では7月末の一週間、今年もプラウドマンション自治会主催の「夏休みラジオ体操会」が親子参加で実施され、公園周辺の子供たちも参加しました。



自治会が「自主防災講話会」を市民の家で開催(7月17日)

進行・説明を大森会長が行ない、

- (1)写真と映像による東日本大震災の地震・津波の状況と、
- (2)当町内の最近の台風やゲリラ豪雨による災害事例として、2019年の台風15号による御幣下公園被害や、2020年のゲリラ豪雨による藤が岡中学校下の階段側溝の雨水溢れを学び、
- (3)地区防災について、“防災むらおか”5号(会員宅配付済み)の防災マップや風水害・大地震への備えを再確認し、各家庭で災害時に向けてマイ・タイムラインを各家族で相談し作成してみることが求められました。質疑応答では、町内の災害事例や避難行動など多くの意見交換がなされ、地元防災への関心の高いことが分かりました。



今後とも地域の災害事例紹介は必要と考えと共に、災害時の各家族の避難行動に大切なマイ・タイムラインの作成を、次回の防災講話会又は防災講習会の実習課題にすることが必要と考えます。

防災キャンペーン(家庭備蓄) 藤沢も含まれる南海トラフ巨大地震対策では、事前防災を重視し家庭での備蓄を1週間以上と呼び掛けています。従来3日分以上と言われてきましたが、指定避難所の藤ヶ岡中学校は、藤沢市が一定の備蓄を備え、かつ自治会(自主防災会)も若干の防災機材と、水や非常食の備蓄を行っていますが、充分ではありません。この為各家庭での食料・水、カセットコンロ、簡易トイレ、乾電池などの備蓄を最低でも1週間分確保して頂きたいのです。大災害時は公的支援が遅れる為、まずは「自助」が大原則であり、その上で「共助」「公助」になるのが過去の大災害からの教訓です。